

第5回エコサロン



「第5回エコサロン」を開催しました

恒例の“エコサロン”も5回目の開催となりました。
2009年11月27日(金)の夜に県湖東合同庁舎で開催しました。
今回の話題提供は、彦根城オニバスプロジェクト代表の渡邊輝世さん。オニバスの紹介や彦根城オニバスプロジェクトの活動などを話していただきました。
彦根城オニバスプロジェクトのマスコット彦鬼(げんき)くんやNPO燦電会(太陽光発電者の会)の活動の紹介などもあり、手作りの差し入れやお菓子などをいただきながら楽しい交流ができました。

生き物調査 ホタル調査のおねがい

環境フォーラム湖東では、みなさんにホタルがどこにいるのか調べていただこうと思います。

すこし前までは、日本中どこでもホタルが飛びまわっている姿が見られました。しかし、今はホタルも少なくなってきていると言われていますが、どのくらい少なくなってきたのか、どこにたくさんのホタルが残っているのかなどはこれまであまり調べられていませんでした。むかしとちがって、毎日の生活も忙しくなり、ゆっくりとホタルをみるようなゆとりも少なくなってきたのではないのでしょうか。ホタルは、自然がいたるところで傷つけられた中で、細々と生き続け、人々に郷愁(きょうしゅう)をいだかせると共に心をいやし、和(なご)ませてくれています。

そこで、ホタルを通して身近な自然に目を向け、湖東の自然をもう一度みなおしてもらいたいと考えホタル調査を実施することにしました。ひとりでも多くの方が参加していただければ、湖東地域全体のホタルや川の状態がくわしく分かってきますので、ご協力をお願いいたします。

調査期間
平成22年5月15日 から 6月30日 まで



環境フォーラム湖東では新規会員を募集しています

すでに環境に関する活動をされている方や、ちょっと環境の勉強をしてみたいという方、企業・市民団体のみなさんまで、どなたでも参加していただけます。
まずはお気軽に、左記事務局までご連絡ください。環境フォーラム湖東に関する詳しい情報をご連絡いたします。

発行：環境フォーラム湖東 (平成22年3月)
■ 〒522-0071
■ 彦根市元町4-1 湖東環境・総合事務所環境課内
■ TEL 0749-27-2210 ■ FAX 0749-27-1688
■ URL <http://www.f-koto.org/>
■ E-Mail info@f-koto.org



エコトピア

第15号

Contents

1. つばめラボ2009報告
湖東の生き物の仲間
2. つばめラボの3年間
3. 第一回湖東の水環境調査
4. 活動報告

つばめラボ2009報告

○概要

「つばめラボ」は私たちと同じ土地で巣作り・子育てをするツバメの観察を通じて「つばめはこんなところに住んでるんだ」「ヒナがかえった!」というような、たくさんの“発見”を皆で持ち寄り、ツバメ達そして私達の暮らす湖東の環境を考えてみようという取り組みです。対象は主に小学校中学年～高学年ですが、特に年齢制限は定めず、個人でも団体でも参加可能となっています。お送り頂いた記録票から優秀なものについて、つばめラボ大賞と、つばめラボ賞を贈っています。

○今年度の活動

平成19年度から3年計画で実施しており、今年度は最終3年目でした。
今年度の受付期間は2009年5月1日～9月4日(随時受付)としました。
2009年11月14日に、湖東地域環境シンポジウムにて表彰式をピバシティ彦根で、展示は13日～19日に同センターモールで行いました。また、表彰式では記念講演として、東京大学 生物多様性科学研究所の北村巨さんに講演を頂きました。



▲「写真に○とかいてある所に羽があります。羽とツバメであたためてるんだなーと思います」
(西田さんの記録表より引用)

○選考結果

「つばめラボ大賞」
該当作なし

「つばめラボ賞」
古石 春佳 さん(小5)
▲ツバメとコシアカツバメが隣り合って巣を作っているのに、巣の材料が違うことを発見。記録票に記録。

西田 瑞穂 さん(小4)
▲巣材に羽根をつかい、羽根とツバメの親とで卵を温めているのを発見。

真木 まあや さん(小4)
▲巣立ちをしたあとも巣に戻ってきて巣の中で泣いているのを発見。

「つばめラボ特別賞」
村西 俊雄 さん(大人)
▲いつヒナが生まれて巣立っていったかはよく記録されるが、いつヒナの目が開いたのかを発見。生まれて11日目目が開いた。

「団体特別賞」
彦根市立稲枝西小学校

「巣作り子育てよく見たで賞」
愛知川エコロジーキッズ

「ツバメとコシアカツバメのお家で賞」
多賀町立大滝小学校

「イワツバメの巣がいっぱいで賞」
愛荘町立秦荘東小学校

湖東の生き物の仲間



コハクチョウ

北極に近いシベリアの北部で生まれたコハクチョウは冬鳥として日本に渡ってきます。琵琶湖には1974年初めて飛来してきました。毎年750羽から1100羽が越冬しにきます。湖北に多く見られましたが近年、彦根市磯浜や八坂沖でも見ることが出来ます。



セツブンソウ(きんぼうげ科)

名前の由来とおり節分頃には早くも咲きだすと云われる春の妖精。実際には石灰岩質を好む芹川上流域でも三月初め頃にお目にかかる。福寿草などと競って春を告げる可憐な花は2cmくらい、花びら状に見えるのは5個の萼片である。花弁は5個あるが退化して目立ず黄色の蜜腺になっている。

つばめラボの3年間

○概要

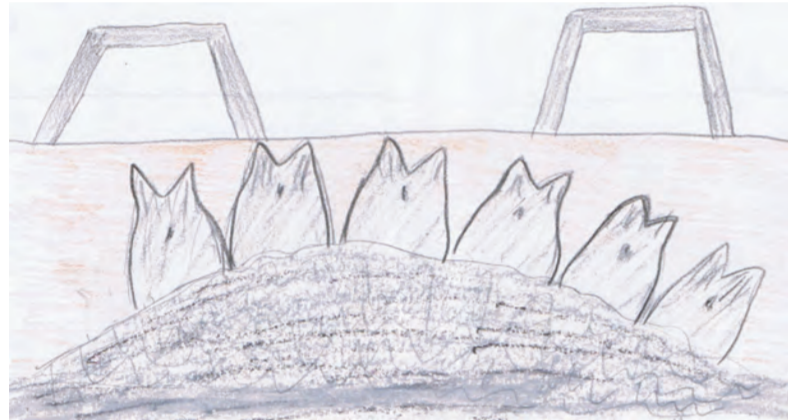
「つばめラボ」はツバメの繁殖調査を通じて、ツバメの繁殖に湖東の自然環境がどんな影響を与えているのかを調べることを目的としています。参加対象者は個人または団体、年齢制限はありません。平成19～21年度の3年計画で実施されました。記録票は絵を書いたり写真が貼り付けられるようになっており、その下に5～6行の文章が書けるようになってます。お送り頂いた記録票から優秀なものについて、つばめラボ大賞（最大1作品）と、つばめラボ賞（最大3作品）を贈っています。選考基準は次の通りです。

- ・斬新な視点や発想でツバメの暮らしを捉えている。
- ・ツバメの暮らしと湖東の環境との繋がりについて発見がある。
- ・調査票の数は選考の基準としません。
- ・絵の完成度よりも、独自の視点でツバメの暮らしを捉えているか、新しい発見があるかどうかを重視します。
- ・絵・写真の記載のないものは選考の対象としません。
- ・フィクションは選考の対象としません。

○主な発見の内容（※は大賞作品 *は大人）

1. ツバメの行動

- 夜にヒナは外に尾を向けて寝ていることを発見（2007 北川ももこ氏※）
- ヒナは尾を巣の外に向けてフンをすることを発見（2007 大江亮氏）
- 片親1羽のみで卵を温めていたのを発見。全ての卵からヒナが孵ったが全て巣から落とされた（2008 山田三男氏*）
- （過去の記録）日食の時、太陽が欠け始め薄暗くなると、ツバメは巣に帰ってくるのを発見（2008 山田三男氏*）
- 生まれて13日目に、今年新しく作った巣から、すぐ隣の去年からある巣に全てのヒナが飛び移って引越（2008 上林弘子氏*）
- 子育て中に窓にぶつかった親ツバメを発見（2007 内堀桜花氏）
- 卵の殻の捨て方と巣立ち後の巣の利用を発見（2007 西村喜代子氏*）
- 巣立ちをしたあとも巣に帰ってきて巣の中で鳴いているのを発見（2009 真木まあや氏）



▲「夜ねる時はみんな中を向いてねていました」（北川さんの記録票より引用）



▲左が去年からある巣。右が今年つくった巣。ヒナが左に移っているのが分かる（上林さんの調査票より引用）

2. ツバメの成長

- いつヒナの目が開いたのかを発見。生まれて11日目に目が開いた（2009 村西俊雄*）

3. ツバメの巣材

- 巣材に蜘蛛の巣を使い、蜘蛛の巣を壁にこすり付けていたのを発見（2008 村岸さら氏）
- 巣材に羽根を使い、羽根とツバメの親とで卵を温めているのを発見（2009 西田瑞穂氏）
- ツバメとコシアカツバメが隣り合って巣を作っているのに、巣の材料が違うことを発見（2009 古石春佳氏）

4. ツバメの巣の場所

- ツバメとイワツバメの巣の形、場所の違いを発見（2007 西澤孝次氏）
- 橋の構造によってツバメが巣を作る橋と作らない橋があることを発見（2008 北川哲氏）



「ツバメの巣がたくさんある橋は、橋げたがまっすぐ立っているだけの橋でした。ひとつもツバメの巣がない橋はカラスなどがとまる横ぼうがあるのがわかりました」（北川さんの記録票より引用）

○考察

何月何日に生まれ、何羽ヒナが孵って、何月何日に巣立ったかという、数値データを取るツバメ調査は様々な所で行われています。「つばめラボ」はあえて、ツバメが子育てをする過程にこだわり、数値データではなく、絵日記を記録してもらう方法を取りました。

3年間の応募数は限られたものの、ツバメの様々な行動を発見してもらうことができました。湖東の環境という点からも、同じ環境で巣作りをしたツバメとコシアカツバメの巣材が違うことや、橋の構造によってイワツバメが巣をつくる橋とつくらぬ橋に分かれることは興味深い発見であったと思います。また地域の大人からも毎回貴重な観察記録を応募頂きました。

しかし反省点として、そもそもツバメがどこに巣をついているのか子どもたちに知られていないこと。観察絵日記という方法が難しいことなどが課題として残りました。

従って「つばめラボ」の取り組みを、より広げていくとすれば、子どもたちにツバメのことを知ってもらい、興味を持ってもらう導入部分を強化する必要があります。その時に「つばめラボ」に集まったこれまでの観察記録は興味を持ってもらうきっかけとして、生きていくと思われま。

第1回湖東の水環境調査

環境フォーラム湖東では「身近な水環境の全国一斉調査」に毎年参加しています。今年はより目で見て分かりやすい水質調査を目指し、第1回湖東の水環境調査として、国土交通省近畿技術事務所が開発された「☆型簡易水質調査シート」を用いた調査を行いました。この調査シートは調査結果のグラフが☆型で示され、大きい☆であればきれいな水、小さい☆であれば汚れた水であることが分かるというものです。調査項目としては「身近な水環境の全国一斉調査」での気温、水温、CODパケットの実施に併せ、「湖東の水環境調査」としてpH、りん酸態りん、アンモニウム態窒素、溶存酸素についてもパケットにより調査を行いました。

基準日 平成21年6月7日（日）
調査地点 湖東地域の河川、水路、池など
「身近な水環境の全国一斉調査」211地点
「湖東の水環境調査」95地点
参加者数 大人67名 子ども97名 計164名

●宇曾川

CODは増えているがNH4、PO4は増えていない

●犬上川・芹川

上流のきれいな水がそのまま流れ下っている

●平田川

上流は水量も少なく汚れた状態が、途中きれいな水で希釈され下流に達する

●猿ヶ瀬川

いずれの支流も汚れていて、それが本流にながれこんでいて、そのまま下流に至る彦根市市街地の中心や、外町から地蔵町にかけての新興地の排水が流れ込んでいる

●柳川漁港・宇曾川漁港

琵琶湖に比べ少しCODが高い

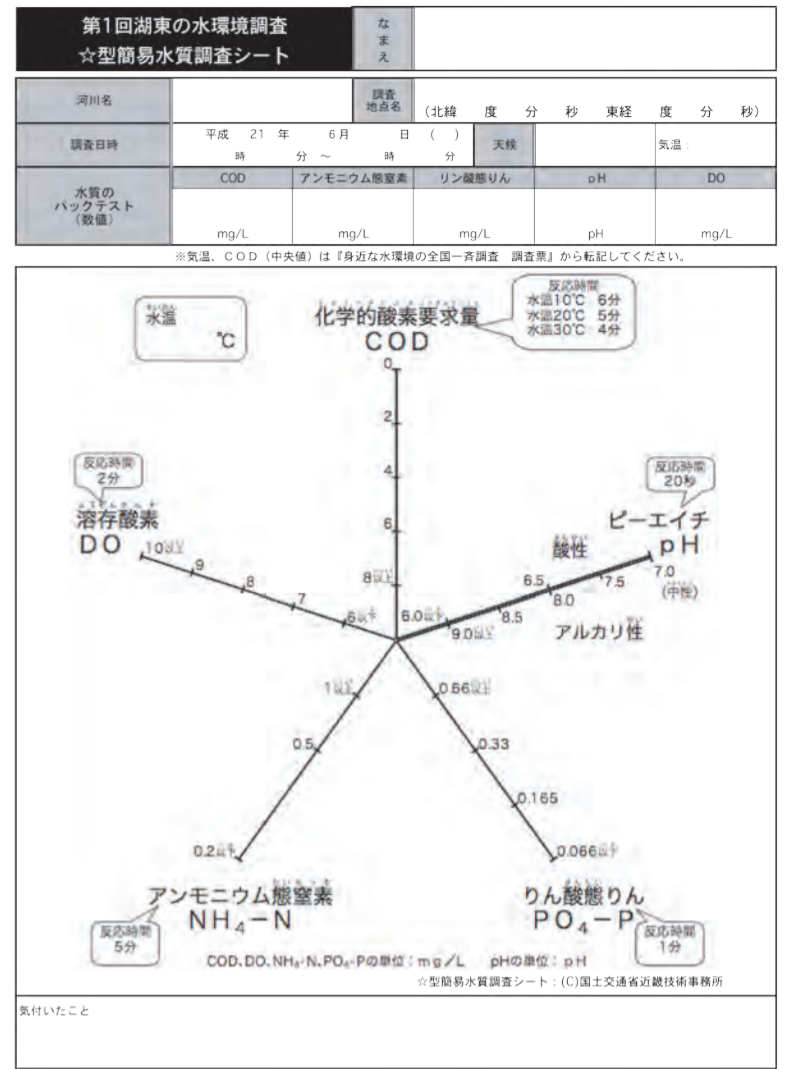
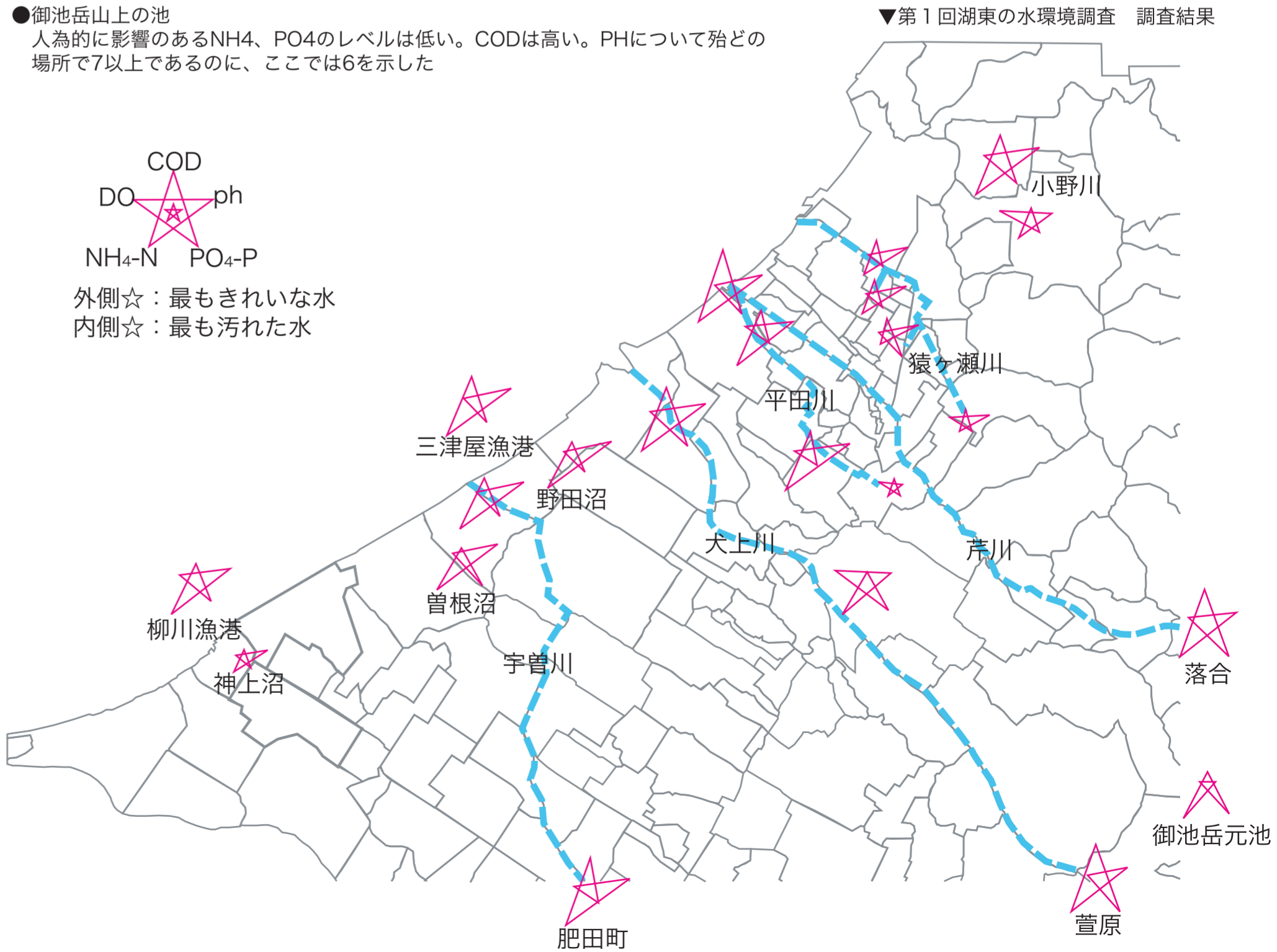
●内湖

神上沼は多くの河川水路の流れ込む野田沼に比べ、汚れていてNH4、PO4のレベルも高く外来種ナガエツルノゲイトウが繁茂している

●御池岳山上の池

人為的に影響のあるNH4、PO4のレベルは低い。CODは高い。PHについて殆どの場所で7以上であるのに、ここでは6を示した

COD
DO
pH
NH4-N
PO4-P
外側☆：最もきれいな水
内側☆：最も汚れた水



▲湖東の水環境調査 ☆型簡易水質調査シート

▼第1回湖東の水環境調査 調査結果